最近における中国語の変遷

手　塚　宗　平

I　はじめに

日中両国は一衣帯水の隣国で，二千年ほど前から，文化と経済の交流が日ごとに栄んになってきました。昔から両国の国民が，様々な面で学び合い，自国の文化・社会・経済・政治などの発展のために積極的に相手国の長所をとり入れてきました。それにより，両国の関係がより親密になり，共通点も日ごとに多くなってきました。特に，日本の漢字伝入により，両国の文化の共通性を決定的にしました。すなわち，漢字が両国の共同財産とも言えるようになりました。

漢字の伝入以前，日本は言葉こそありましたが文字がありませんでした。それは，アフリカなど未開発地の住民（たとえばブッシュマン）同様に文化の進歩が，とても緩慢でした。漢字の伝入のおかげで日本が著しく変化しましたことは，言うまでもありません。

漢字が共通文字ですから，日本人が中国語を学習する時には，非常に便利です。漢字の基礎能力を活用し，早い段階で中国語への理解力を深めることができます。中国語と日本語は，同じ漢字を使う共通点があります。しかし，漢字一色の中国語は，日本語とはかなり違います。日本語は，文中に必らず漢字とかなを並用しますが，中国語の文は，すべて漢字です。

日本語の〝かな〟は，単に発音するためにあるのではなく，文章の中にもその存在を必要とします。〝かな〟抜きの日本語はちょっと考えられないことでしょう。

たしかに，中国語も日本語の〝かな〟のような発音記号があります。しかし，それはあくまでも発音するためにあるのであり，けっして文章を表現す

ることはありません。ですから，中国語の書物・新聞・雑誌など，すべて漢字で印刷しています。それは日本語と根本的に違います。

中国語と日本語の共通点を活用しながら，その差異点をよく理解し，つまり，中国語の学習要領を吟味すれば，中国語ももっと簡単でもっとわかりやすいでしょう。

Ⅱ　二つの中国語

ご存知のように，今の中国は二つの政権が並存しています。それは，中国大陸を統治しています中華人民共和国と台湾を支配しています中華民国の二つの政府があります。不思議なことに，この二つの政権が共に中国が一つと主張しながら，相手の存在を黙視する以外に方法がありません。お互いに自分こそ中国民族の正式代表と言い続けています。そして，政権の正当性を強調するためにも，相手との色分けをできるだけ表現しなければなりません。その二つの政権のもとで二つの中国語がそれぞれ普及しています。

二つの中国語というのは，発音と文法のまったく同じ語学でありながら，使用する漢字がかなり違います。そして，発音記号も違います。つまり，台湾海峡をさかいにした二つの中国は，中国人同士で会話するときには全ったく不自由はありませんが，手紙の交換となると必ずしも不自由でないとは言いきれません。

まず，大陸から追放され台湾に存命政権を作った中華民国政府は，政権の正統性を強調するため，伝統的な中国漢字と発音記号を使用しています。政治的な立場から考えますとやむを得ないことかもしれません。

一方，革命が成功し建国三十何年か経過した大陸の中華人民共和国はその政権の安定感から台湾政権のような政策をとる必要はありません。逆に革命政権の特色を現わすためにも，政治をはじめ経済・文化・社会など色々の分野で幅広い政策を断行しています。その中で，中国語に対しても，様々な改訂を行ない，まず，中国語の発音記号を変更したり，今までの発音記号を注音符号（日本の〝かたかな〟によくにている）から口ーマ字に改めること。

それは，日本語のように“さくら”と“SAKURA”のように発音・文章使用することができるということではなく，あくまでも発音しか使用しません。すなわち，台湾で使用している昔からの発音記号は“ㄅ”“ㄆ”“ㄇ”“ㄈ”など様々な母音と子音があります。そして，それを注音符号と呼びます。中国大陸では，その“ㄅ”を“b”“ㄆ”を“P”“ㄇ”を“m”にかえ，しかも，注音符号を改名発音記号とよびます。

注音符号	発音記号
ㄅ　ㄆ　ㄇ　ㄈ	b　p　m　f
ㄉ　ㄊ　ㄋ　ㄌ	d　t　n　l
ㄍ　ㄎ　ㄏ	g　k　h
ㄐ　ㄑ　ㄒ	j　q　x
ㄓ　ㄔ　ㄕ　ㄖ	zh　ch　sh　r
ㄗ　ㄘ　ㄙ	z　c　s
ㄞ　ㄟ　ㄠ　ㄡ	ai　ei　ao　ou
ㄢ　ㄣ　ㄤ　ㄥ	an　en　ang　eng
ㄧ　ㄨ　ㄩ	i　u　u

第一図　　二つの発音記号対照表

もう一つの改革は，漢字の簡体化です。すなわち，今までの漢字をできるだけ簡単にかけるように手直ししました。昔から，漢字も時代の移り変わりと共にすこしづつ変化してきました。特に一九四九年の人民中国成立以来，政府の積極的な改革によって漢字が著しくかわりました。それは，簡体化の普及でした。簡体化と言うのは，できるだけ漢字の筆画数を少なくし，それにより字を書く時間を短縮することができます。特に，長い文章を書く人には，非常に役立ちます。

革命後の中国は，三十年間に何回かの政令により，たくさんの漢字を簡体字になおしました。勿論，その改革は，非常に複雑で困難な仕事です。なにしろ，何万字もある漢字を全部簡体化しようというのですから。それでとりあえず，日常よく使う漢字の中から，筆画の多い漢字を選んで，じょじょに手直しして行なうしか方法はありません。漢字の簡体化の仕事で一番大事なことは，元の漢字のイメージを損なわない程度で考えなければなりません。あまり，無秩序・無意味な改革は，かえって混乱を生じます。ですから，中国政府がたくさんの学者を集め，かなりの時間をかけてすこしづつ何回にもわけて新しい簡体字を決めました。勿論，簡体字が発表されても，今までの漢字をすぐ廃止するということではありません。それは，共存状態からだんだんにすくなくなるように提唱します。つまり，政府が積極的簡体字の普及に力を入れますが，今までの漢字は，使用禁止同様の強硬策はとりません。

社会主義革命政権とはいえ，資本主義を追放するような社会革命とは違います。なにしろ，漢字の歴史はとても長く，漢字を使う人は全国民です。漢字による身分差別もないし階級斗争の必要もありません。特に，全人口の半分以上は，革命成功後誕生したもので，あとの半分は，建国前あるいはその直後で教育をうけた人々です。すなわち，今までの漢字を常用する人達もかなりいます。使いなれた古い漢字を急きょ簡体字へ書き直すことはけっして容易なことではありません。

簡体字の普及で，もう一つの障害があります。それは古い書物です。革命前及び簡体字の発表以前に印刷した書物は,すべて古い漢字で表現されています。それらの印刷物をすべて，簡体字に印刷しなおすことは，とてもぼう大で困難なことです。従って簡体字の教育しか受けていない世代が，古書と出合った時は，外国語の原書みたいにかなりとまどいを感じることでしょう。ですから，じょじょに簡体字の普及に力を入れ，古い漢字に対しては時間をかけ，自然消滅をまつしかありません。

今，日本で学習している中国語は，だいたい中華人民共和国の中国語です。

つまり，ローマ字の発音記号と簡体字の中国語です。特に，一九七二年の日中国交回復以来，人民中国を政治的に承認したのと共に文化経済などの面も一辺倒のように，ほとんどの学校では，全部人民中国の中国語にきり換えたのも事実です。それは，日本人の“よれば大樹”という国民性のあらわれかもしれません。もっとも，簡体字も古い漢字を手直ししたものです。どちらも根源一致ですから，だいたい連想しやすく，どちらの中国語でもあまり時間をかかけなくても，もう一方の中国語への認識転換が自由自在です。

Ⅲ　中国語と日本語の異同点

今も昔も同様，相手の国を滅亡させるのに一番大切なのは，その固有語学を抹消することです。単に征服するだけでは，いずれ逆転されることもありえます。相手の文化の追放により，同化政策もしやすく統治期間も長くなるでしょう。ロシヤ人の中央アジア及びその他の政策，あるいは，日本の植民地政策から考えればけっして不思議なことではありません。逆に，モンゴル人・満州人など，中国を支配した時期がありましたが漢民族の固有文化を容認したため，逆に漢民族に同化させられました。日本が独自の文化，語学を守りつづけたことで同化されたり，滅びることがなかったこともそうだと思います。

同じ漢字を使用している日・中両国には，それぞれ漢字に対する発音が違います。それは，昔から日本に，自国の言語があったことです。漢字伝入以後でも，日本は，元の言葉を廃止することなく，単に漢字を自国の言葉の中に溶け込むように努めたことです。それは，日本民族の性格のあらわれでもあります。とり入れることの上手な日本人は単にまねばかりでなく，伝入したものに工夫を加え常用的にかえること，幸いに，その国民性によって日本民族の自主独立が守れました。

1　発　音

日本語は，漢字が二つの読み方をします。一つは中国語の発音によくにた発音“音読み”で単に中国語の“一漢字に一つの音節”の特徴もよくあらわれています。たとえば，“春”“夏”“秋”“冬”は“シュン”“力”“シュウ”“トウ”と読みます。

もう一つの読み方は，“訓読み”で中国語の発音とはまったく異なり，日本古来の言葉を同じ意味の漢字と組み合わせた読み方です。たとえば，“春”“夏”“秋”“冬”は“はる”“なつ”“あき”“ふゆ”のように音読みとは，まったく違った読み方をします。しかも，一漢字に二つの音節もあります。また，“私”（わたくし）のように四つの音節もあります。中国語と日本語の発音の異同点は，はっきり言って日本語の音読みは中国語の発音とよく似ています。ですから，連想もしやすいのです。しかし，訓読みになるとまったく通じません。

2　漢　字

日本語と中国語は同じ漢字を使います。したがって，同じ漢字であればその意味も使い方もだいたい同じですが，時には同じ漢字でも意味のちがう場合があります。勿論，日本で作った漢字もあり中国語では，みられないような漢字もあります。

日本語と中国語の漢字で意味がほとんど同じなのは，形容詞の漢字です。動詞になるとだいたい違う意味になります。又，位置方向用語は同じ漢字ですが，時間用語になると又も違う漢字を使用します。そして，その他一般によく使用する名詞では，日本語と中国語の同意味の漢字は約半分で，あとの半分はまったく連想もできないような漢字であらわします。即ち，当用漢字と中国語漢字（簡体字を含む）は，たいてい一緒と考えればよいのですが，一部分の違う漢字については，その要領さえ理解すればあまり困ることもないでしょう。では一般的によく使用する漢字の中から，異同の共通点を具体的な例で示してみましょう。

a　代名詞

中国語は，日本語のような敬語の使い方がほとんどないので，“私”は“我”だけで，日本語のように，“わたくし”“わたし”“おれ”“わし”あるいは，“あなた”は“你”でいいのです。時には，親しみ用語の“您”を使用することもありますが，日本語のように“あなた”“君”“貴様”あなた様”などのように，こまかく使いわけることはありません。その上，代名詞は，日中の文字ではほとんど違います。

我——私	我——私達	你——あなた
他——かれ	她——かのじょ	自己——自分
别人——他人	大家——皆	谁——誰
哪ル——どこ	那ル——あそこ	这ル——ここ
哪个——どれ	这个——これ	那个——あれ

b　動　詞

動詞ほど日・中の漢字の中で違うものはありません。まったく，連想できないとも限りませんが，なぜか，意味の同じような漢字がほとんど日本語では使用できません。

吃——食べる	喝——飲む	看——見る
听——きく	来——来る	去——行く
走——歩く	跑——走る	坐——座る
站——立つ	买——買う	卖——売る
读——読む	穿——着る	唱——歌う
放——置く	拿——持つ	

c　形容詞

形容詞は動詞とまったく逆くの現象です。日・中両国の漢字の中で最もよく相似する漢字はこの形容詞です。勿論，違う漢字を使用する場合もあります

が，それはほんの少数です。

大・小，多・少，硬・軟，厚・薄，寛・窄（狭い），高・低，新・旧，快(速い）・慢

d　時間用語

動詞と同様，ここでも日中の漢字にかなりの差があります。

上午——午前　中午——昼　下午——午後

早上——朝　傍晩——夕方　晩上——夜

白天——昼間　上个星期——先週

这个星期——今週　下个星期——来週

今天——今日　昨天——昨日　前天——おととい

后天——あさって　上个月——先月

下个月——来月　这个月——今月

上次——前回　这次—今回　一点一刻——一時十五分

三点三刻——三時四十五分

e　位置方向用語

たいてい，日中の漢字は同じです。

上，下，左，右，前，後，東，南，西，北，里（内），外

f　名　詞

どの語学の中でも，名詞の数は一番多いです。それは，日本語も中国語も同じ事です。数えきれない名詞の中に，一般名詞，つまり日常用語になると，中国語と日本語の漢字はだいたい半分程度が同じ，その後の半分が違う漢字になっています。しかし，専門用語つまり，専門的学術用語になるとほとんど同じ漢字です。ただ，終戦後，日本語は専門用語及び外来語はよくカタカナで表現されます。それは，中国語とは全々違います。一般用語の中に大学と関連ある名詞を例で見ると。

学生——学生（生徒）
教室——教室
椅子——椅子
图书馆——図書館
教授——教授
副教授——助教授
讲师——講師
助教——助手
老師——先生
办公室——事ム室
卓子——机
课本——教科書
笔記本——ノート
粉笔——チョーク
操场——グランド

3　文　法

中国語の文法と日本語の文法で最も大きな違いは，中国語は孤独語系で，日本語は膠着語系です。孤独語というのは，主語にしろ目的語にしろどちらも単独に存在することができますが，膠着語になると必らず（が・を・に・へ・は…など）の助詞を付けなければなりません。それで，中国人が日本語を話す時一番間違いやすいことは，助詞の表現です。中国人がいつも助詞を省略した日本語で話すのは，中国語の習慣の違いからの結果です。ですから，日本人が中国語を話す時は，あまり助詞について苦労することはありません。

もう一つは，連結語と目的語の位置付けです。一般的に，中国語の連結語を目的語の前に置くことです。つまり，是（です）要（ほしい）及び動詞を必らず目的語の前に置きます。勿論助詞ぬきです。

例えば，

吃飯—飯をたべる　看报（報）—新聞を読む　写字—字を書く　などのように日本語とはまったく逆です。その要領を理解すれば中国語もわかりやすいでしょう。

4　外来語

日本語は，よく外来語を同音のカタカナで表現しますが，あまりカタカナ語があふれている最近の日本語は，よほど外国語の理解力の高い人，あるい

は，特殊な職業の専門知識の豊かな人でなければ，なかなかわからないカタカナ語も沢山あります。それは，原語書籍のようによく人々をなやませる事にもなります。

その点は，中国語と日本語とではかなり違います。中国語では，外来語の性質によっていくつかの表現の方法があります。その中に日本語のカタカナ語みたいに，その外来語の発音とよく似た発音の漢字をあてはめた，いわゆる「音訳式」があります。

音訳式の外来語は，おもに外国人の名前，あるいは，外国の国名・地名のようなことによく訳されます。勿論，日本語・朝鮮語などのように，もともと漢字を使用している人名地名は，そのままの漢字で表現すればよろしいのです。

もう一つの方法は「意訳式」といいます。それは，人名・地名とは違い，その外来語の物事の用途，性能，役割りなどに連想しやすい漢字を表現する方法です。もしも，そのような外来語まで同音の漢字で表現したら，最近の日本語の中のカタカナ語みたいな弊害が生じます。すなわち，中国語の意訳式外来語は，外国語の知識の乏しい一般大衆に対する配慮でもあります。

Ⅳ　発音記号のみへの発想

今までは，漢字が唯一の文字表現であった中国語では，最近新しい試みを考案しています。それは，できれば漢字を簡体字に改革するだけではなく，すべての漢字を全部なくしローマ字の発音記号のみでの表現というような大胆な発想です。

なにしろ，漢字の数は何万字もあります。その中に，日頃よく使用する常用漢字だけでも三千字ぐらいあります。それは，日本語の当用漢字でも同じ事情です。それらの漢字を全部覚える事は，けっして簡単な事ではありません。特に，もしそれらを全部タイプ，あるいは印刷にする事はそれこそ大変な事です。一般の中国語タイプライターで表現できる漢字は，せいぜい二千

字ぐらいが限度ですからそれ以外の字が現れた時，タイプを打つ人はそのたびにいちいち鉛字を取りかえなければなりません。それは，とても面倒な事です。

特に，中国語は漢字しか使用しませんので日本語でタイプを打つ時より，もっと難しい事です。即ち，日本語でのタイプの場合，もしも表現したい漢字がなければ，その漢字のふりがなで表現する事も出来ます。それは，多少かっこうは悪いかもしれませんが絶対にだめと言うことではありません。例えば「多少かっこうの悪い事」をふりがなのみの「たしょうかっこうのわるいこと」で表現する方法もあります。その点は中国語にとって，とてもまねのできる事ではありません。漢字一色ですから，文中に突然日本語のかなみたいな発音記号が現われたら，それこそ大変な事になります。タイプも，印刷もできません。勿論，今までの書籍，新聞は一度も発音記号を使ったことがありません。

最近，たしかに日本語のワープロコーピューターのように，中国語のワープロコンピューターの開発が積極的に行なわれていますが，やはり何万字もの漢字を全部コンピューターに組み込む事は，とても無理な事です。特に，同音漢字の場合はいくらコンピューターでも表現の違いはさけられません。

特に，文章を書く人だけでなくその書いた文章を読む人によっては，読めない漢字も沢山あります。その時，文字による意味伝達の役割りをはたせる事はできません。

ですから，最近中国では，すべての漢字をできるだけ発音記号と併用して表現する方法，たとえば，日本の駅のホームにある漢字の下に必らずふりがなをつける駅名の表示板のように，中国の駅のホームは勿論の事，他の色々な所でもなるべく発音記号と漢字を併用することです。将来，できればその漢字をなくして発音記号のみの表現を取り入れたいのは，今の中国語の文字改革の最大の目標でもあります。

ローマ字の発音記号だけの文章は，日本語の幼児向けの絵本のように言葉のできる人なら誰でも簡単に書けるし読めます。そして，それは大変便利な

事です。

しかし，大人が漢字のない幼児の絵本を見る時は，やはり物足りない感じがあるようにかえって，不便と思う時もあります。

例えば，韓国のようにある時期に政府が漢字の使用を禁止し，すべての文字表現は朝鮮語で現わすようにしてしまわれました。それは，国民生活に様々な支障が現われ国民全体になじめないことも事実でした。

その点は，日本語も中国語も同様です。ふりがなのみの日本語，あるいは，発音記号のみの中国語の書物，新聞はたしかに幼児には便利かもしれませんが，逆に，大人に対しては，あまりなじめない事なのではないでしょうか。自分の名前まで，ローマ字の発音記号で書かれた手紙を受けとる時の気持ちは，ローマ字のふりがなの電報を受けるような気持ちと同じでやはり，すっきりしません。

ですから，中国では，文字改革の最終目標は，ローマ字の発音記号のみというこころみがありますが，現段階ではあくまでも発想にすぎません。それを実現するまで，又かなりの長い時間をかけて，様々な問題を克服する事が必要でしょう。

V　むすび

中国のことわざ「知己知彼，百戦百勝」（彼を知り己を知れば百戦殆からず）なにごとも，自分の事と相手の事を把握すれば成功しやすいです。ですから，中国語を学ぶ時など必らず中国語と日本語の共通点，あるいは異なる点をよく理解すれば上達するのもはやいし，また中国語を勉強したことのない人でも，中国語の要領を理解すれば，旅行先の中国案内人を呼ぶ時でもいくらか役立つことでしょう。

国際交流が増々栄んになった今日この頃は自国語だけの生活では，いろいろな不便が生じます。特に，生活の内容をより豊かなものにするためにも，やはり国際性を持つ必要があります。そして，できるだけ海外情報を吸収することでしょう。外国の事情をよく理解するために，勿論一番大切な媒介は

その語学です。外国語の修得による学問的なことだけでなく，日常生活の幅にもひろがりをもつことができるでしょう。

たしかに今の中国は，様々な面でおくれてはいますが，人口の多い，国土の広い，しかも歴史も長く，日本の隣国でもある中国は，昔から日本の最も関係深い国の一つです。これは，これからもかわることがないでしょう。ですから，中国語を学習されることはけっして低効率なこととは言えません。なにしろ，十億以上の人々が使用し話している言葉，しかも国連で採用する共通語の一つでもある中国語は，今後その必要性を増々拡大することと思いですから，日本人にとってもっともわかりやすく，学習しやすい外国語である中国語をしっかり勉強をすればいずれ必らず，生活及びその他の活動に役立つことでしょう。

参考書目

現代中国語辞典　香坂順一編著　光生館　S57　初版
中国語基礎会話　北京語言学院編　光生館　S55　初版
中国語文法の基礎　三野正一著　三修社　1978　初版
中国語基礎読本灌語北京語言学院編　光生館　S56　初版
要解中国語綜合力養成　張世国著　文人社　1982　初版
現代中国語入門篇　太田辰夫・香坂順一・田中清一郎・鳥居久靖 共編　光生館　1982　19版
増えるカタカナ語　田中晶子著　本学総合経済研究所　1983　7・8月号
中国語の中での外来語　手塚宗平著　本学総合経済研究所　1983　7・8月号
中国文学改革のゆくえ　NHK教養ゼミナー主篇　1983　10月放送番組